

太刀 銘正恒

太刀銘正恒は鶴岡八幡宮の宝物でも最も貴重なものの一つであり、国宝に指定されています。12世紀または13世紀初頭に、備中（現在の岡山県）西部の刀工、正恒によって作られました。備中ならびに隣の備前は良質の砂鉄と鍛冶の伝統で名をはせていました。正恒は中世の位の高い侍や貴族が愛好した青江派に属する刀工です。1736年、この太刀は装飾のついた付属品とともに、1603年から1867年まで日本を支配した徳川家の八代将軍、徳川吉宗(1684-1751)より奉納されました。

太刀の奉納は武士階級によく見られた慣習で、主に神様への謝意を表す目的がありました。八幡宮を創建し日本で最初に幕府を開いた源氏を深く尊敬していた徳川家の歴代将軍は、鶴岡八幡宮にこうした奉納を何度も行っています。徳川家は江戸時代に御本殿を始め、御社殿の大規模改修を行い、数回にわたり鶴岡八幡宮を拡大しました。この太刀はそうした改修の完成を記念して奉納されたものです。